

97 まがいしょうめんこんごう
磨崖青面金剛



指 定 市有形文化財 平成14年 3月6日
所在地 田 口
所有者 大工原 一彦



庚申塔や青面金剛像はよく見かけるが、磨崖のものは今までに九州と東北に二体判明報告されているのみで、全国的に見ても極めて希少価値を有する石造物である。

磨崖は刻記はないが、お滝神社参道脇にある総高2.3mの六角石灯籠の竿部分に、「奉寄進庚申待信州佐久郡平賀庄田野口村」「于時寛文十二壬子天七月吉日施主以上十四人 法口雄甚作之」(1672)と銘が入っている。今から337年前、江戸期のものである。しかし、この磨崖青面金剛像は、この石灯籠よりも、もっと以前のもものと推定されている。横135cm、縦80cmで、57cm程石を抉り取った庇がある。その奥を平面に削り、更に5cmほどの縁どりがなされ、中の横35cm縦31cm程の中央へ「青面金剛」が彫られている。

更に左右に矩形の縁どりをし、上方に鶏を、下方に猿を配し、都合4点の二鶏二猿の庚申像彫物がある。縁どりは4点とも寸法は一定しないが、縦8cmから9cm、横10cmから14cm程である。

雨や直射日光を防ぐため、庇付きで、意匠に心を用いている。南に面していて、日照等の加減が薄い苔等が見られるが、傷等も少なく、よく保存されている。